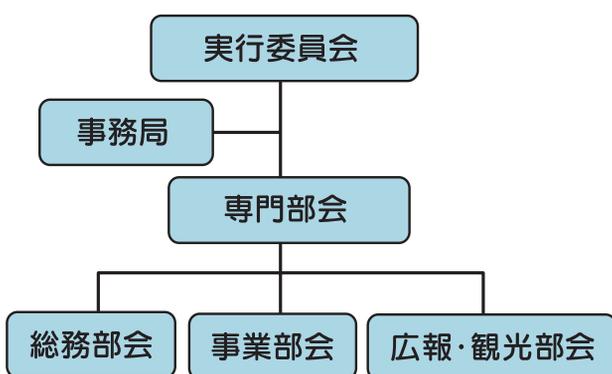


井原市

1 推進体制

平成18年11月28日、井原市生涯学習推進本部長である井原市長を会長とし、目的に賛同する地域団体、生涯学習関係機関、教育委員会及び関係部局職員等の委員によって組織する“第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」井原市実行委員会”を設置し、事業の具体的な推進を図るため3つの専門部を置きました。事務局は、井原市教育委員会生涯学習課内に設置し、開催準備を進めました。



2 基本方針

井原市では、「市民の生涯学習への意欲を高めるとともに、学習への参加を促進し、生涯学習の一層の振興と地域の活性化に寄与する」とした開催意義の下、以下の基本理念に立ち、事業を推進しました。

【基本理念】

- 生涯学習フェスティバル開催の趣旨にのっとり、既存の事業を柱にして、事業を効果的に組み合わせることにより実施する。
- だれもが参加・交流・体験でき、学びを身近に感じることができるフェスティバルとする。
- 合併による新しいまちの「ひとづくり」「地域社会づくり」に寄与できるフェスティバルとする。
- 市民と行政・事業者等との協働によって開催するフェスティバルとする。
- 井原市の取り組みや方向性を市内外にアピールできるフェスティバルとする。
- 開催年だけにとどまらず、その後においても成果が継承されるフェスティバルとする。

3 企画運営・事業展開

・企画運営

事業全体の基本構想・事業計画については、平成18年11月から、井原市実行委員会及び専門部代表者会で検討・協議を行い設定しました。事業ごとの具体的な内容と実施方法等については、専門部ごとに会議を重ね検討し準備を進めました。また、フェスティバル開催期間を中心とした前後3ヶ月に、既存の事業を実施する予定であった関係機関・団体等と調整し、これらの事業を参加事業や協賛事業と位置付け、事業内容、運営主体、実施方法等についての協議を行いました。

・事業展開

- (1) 生涯学習活動の成果発表の機会提供
- (2) 体験・交流の場の提供
- (3) 地域文化・産業・自然等、地域のよさを学ぶ機会の提供
- (4) まちづくりにつながる生涯学習の推進について学び合う場の提供 等

○井原市実行委員会主催事業（3事業）

- ・気分上々↑↑ダンス大会
- ・まなびフェスタ in いばら
- ・全国生涯学習まちづくりサミット

○井原市会場参加事業（8事業）

- ・「まなびピア岡山2007」記念コンサート
- ・井原市文化祭 ・国際交流フェスタ in いばら
- ・井原線沿線ウォーク ・星の郷 四季の写真展
- ・芳井ふるさと祭り 文化祭 ・田中美術館特別展
- ・芳井歴史民俗資料館特別展

○協賛事業（16事業）



4 広報・啓発

(1) 広報誌・情報誌等でのPR

- ・広報いばらでは、4月より「まなびピア岡山2007」inいばらのコーナーを設け、毎月、主催・協賛事業の概要・進捗状況や関連記事を掲載し、市民への周知・意識の向上に努めました。
- ・参加事業・協賛事業主催者への情報掲載依頼をし、広報・PRをしていただきました。
- ・市内の生涯学習ボランティア等の情報誌でも広報・啓発を行っていただきました。

(2) 屋外掲示物によるPR

- ・懸垂幕を作成し生涯学習施設に掲出。
- ・井原駅前広場に開催アーチを設置。
- ・市実行委員会・参加事業主催者等作成の大型チラシポスターを公共施設・事業所・商店等に掲出。

(3) ケーブルテレビでのPR

- ・フェスティバルの特集番組を制作し放映。
- ・各事業の関係者が「情報コーナー（おしゃべりNOW）」に出演して事業をPR。
- ・事業実施の様子を「地元ニュース」で紹介。

(4) その他

- ・井原会場での事業と中心事業の内容を掲載した新聞折り込みチラシを全世帯に配布。
- ・様々な事業のチラシを公民館や各施設窓口、学校、他事業開催時等で配布。
- ・県作成ののぼり旗・ポスター・チラシ・ガイドブック等啓発物を活用したPR活動。



5 成果と課題

期間中、市内各所で開催されたさまざまな生涯学習イベントに、多くの市民が関わり、参加し、盛り上がりのあるフェスティバルとなりました。日頃から生涯学習活動に取り組んでいる多くの人々の協力により開催されたこれらのイベントは、子どもから高齢の人まで、さまざまな世代の市民に刺激を与え、生涯学習活動へのさらなる意欲向上や学習活動への参加のきっかけづくりにつながったと思います。

生涯学習は範囲が広く、その意義や理解が浸透しにくいところがありますが、今回のフェスティバルを通じて、「生涯学習活動に参加し、学ぶ楽しさや大切さを感じ、いろいろな人と交流しながら学びの輪を広げて人生を豊かにしていくことはとても重要であること」そして「学びの成果や培った力や技能を地域のために役立てていくことは“まちづくり”に結びつくすばらしいことであること」を多くの市民が感じとることができたと考えます。また、事業を進めるなかで、市民・行政・事業者等の新たな協力・連携のネットワークが築かれ、知恵を出し合うことで可能性を拓くとともに、そこに関わる人々の活力を生み出していったことは大きな成果でありました。

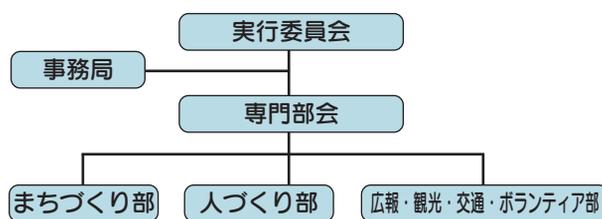
課題を挙げると、体制づくり、地域開催地の難しさ、行事集中に伴う問題等々いろいろとありますが、一番大きな課題は、フェスティバルを通して構築されたネットワークをいかに継続・発展していくか、そしてどう支援していくかということであろうと思います。市実行委員会では、当初より「市民と行政・事業者等との協働」「開催年だけにとどまらない成果の継承」を基本理念としてきました。このネットワークを今後の生涯学習事業の展開や協働のまちづくりの推進に継承するということがおのの長い成果の継承につながると考えます。

総社市

1 推進体制（組織図）

総社市では、平成18年度より教育委員会生涯学習課において、第19回全国生涯学習フェスティバル総社市実行委員会設置要領に基づき実行委員の選任及び実施計画等の原案作りに着手し、平成18年10月19日に教育長を会長とした20名の委員による第19回全国生涯学習フェスティバル総社市実行委員会を設立しました。

総社市のもっている特性を十分に生かしつつ、市町村合併後2年目ということもあり、新しい総社市のまちづくりや人づくりに寄与でき、今後の生涯学習の推進に一層役立つフェスティバルにしていきたいということから、実行委員会の中に「まちづくり部」「人づくり部」「広報・観光・交通・ボランティア部」の3つの部会を設け推進していきました。



また、実行委員会の他に教育委員や社会教育委員の方々にも検討をいただいたものを参考に、その後、各部会での数回にわたる審議の後、平成19年4月16日の第2回目の実行委員会で3つの主催事業と14の参加事業・協賛事業の原案が承認され、実施に向け各専門部会で更に綿密な審議検討を行っていきました。

2 基本方針

- 生涯学習フェスティバルの趣旨にのっとり、主に既存の事業を効果的に組み合わせることにより実施する。
- 誰もが参加・交流・体験でき、学びを身近に感じることができるフェスティバルとする。
- 市町村合併による新しいまちの「ひとづくり」「地域社会づくり」に寄与できるフェスティバルとする。
- 総社市の特徴を市民以外にもアピールできるフェスティバルとする。
- 開催年だけに留まらず、その後においても成果が継承されるフェスティバルとする。

以上の基本方針としていましたが、実行委員や社会教育委員の中から、「誰もが参加できるものであってほしいが、中でもこれからの時代を担う若い世代の人たちに、学びの楽しさや大切さが実感できるものであってほし

い。」「ただ見たり聞いたりというだけでなく、特に、体験を通して学びが深められるものであってほしい。」等の御意見をいただき、これらの内容も基本方針に含め、その後も各部会で検討していきました。

3 企画運営・事業展開

(1) 実施事業

企画運営については、実行委員会で原案承認後3つの部会でそれぞれ実施していきました。

○主催事業（3事業）

①吉備のクイズ合戦“温羅vs桃太郎”

日時：11月3日（日）9：00～14：00

会場：総社市砂川公園

内容：参加者がチーム温羅とチーム桃太郎に分かれ、地域にちなんだクイズを楽しみながら学びを深めるとともに、吉備の自然に親しむイベント。



（関連事業として）温羅と桃太郎絵展「新吉備路のお話」を読み絵を描く

9月25日（火）～9月30日（日）リブ総社店に作品展示。

②そうじゃまなび人間大集合

日時：11月4日（日）10：00～17：00

- ・展示発表の部 11月1日（木）～4日（日）
- ・ステージ発表の部 11月4日（日）
- ・体験広場の部 11月4日（日）

会場：総社市総合文化センター他

内容：市民が日ごろ取組んでいる様々なジャンルの文化的な活動を、これまでにない規模と内容で発表し合う中で、見たり聞いたり体験したりしながらいろいろな学びを深めるイベント。



③岡山フィルハーモニック管弦楽団「青少年オーケストラ鑑賞会」

日時：11月11日（日）14：30～16：00

会場：総社市民会館

内容：主に青少年を対象としたオーケストラ入門編とも言える内容で、楽器紹介や指揮者体験、オーケストラとの合唱共演など楽しく親しみやすい雰囲気の中でオーケストラの楽しさやすばらしさが体験できる演奏会。



○参加事業（3事業）

①温羅まつり

日時：11月3日（土）9：55～15：30

会場：総社市砂川公園

内容：砂川公園で行われる恒例の秋のまつり。

②吉備路ウォーキング大会

日時：11月4日（日）9：00～16：00

会場：吉備路周辺

内容：吉備路周辺を巡るウォーキング大会。

③6世紀の古代たたら操業Ⅱ

日時：11月2日（木）～4日（日）

操業 4日（日）8：00～20：00

会場：総社市奥坂地区かなくろ谷遺跡横広場

内容：日本最古の製鉄遺跡の炉を復元し、6世紀のたたらによる鉄作りに挑戦。

○協賛事業（9月～12月に開催された11事業）

鬼ノ城グランドゴルフ交歓大会（9/15）、れとろード（9/29～9/30）、岡山県立大学「晴れの国 鬼ノ城シンポジウム」（10/13）、古代たたら操業（10/7）、そうじゃ温羅じゃマラソン（11/11）、市内公民館まつり（10月～11月）、市内小中音楽会（11/16）、総社市長杯卓球大会（11/17）、総社市スポーツ少年団軽スポーツ大会（11/17）、わくわくスポーツデー（12/8）、市民劇団「温羅」公演（12/9）

(2) ボランティアの参加・協力

わくわく体験広場において、幼稚園や、小中学校の教諭及び中学生のボランティアグループ、総社市婦人協議会、レクリエーショングループ「たんぼぼ」等多くの方々に御協力をいただきました。

4 広報啓発

(1) 屋外広告物

- ① 総社市役所本庁舎に「第19回全国生涯学習フェスティバルまなびピア岡山2007」の懸垂幕を設置。
- ② 総社市総合文化センター周辺及び市内各幼小中学校に「第19回全国生涯学習フェスティバルまなびピア岡山2007」の啓発用のぼり旗設置。

(2) 印刷物

- ① 市内全世帯に配布の総社市広報紙「広報そうじゃ」に毎月第19回全国生涯学習フェスティバル及び生涯学習関連記事を掲載。
- ② 第19回全国生涯学習フェスティバル総社市主催事業・参加事業・協賛事業を載せた広報用ポスターを

作成し、市内各所に掲示。

- ③ 各主催事業のリーフレット・参加申込用紙やガイドブック等を市内各保・幼・小中学校（所・園）や市役所、公民館、図書館等に配布。

(3) その他

- ① 市ホームページに事業内容等掲載。
- ② 新聞社及びケーブルテレビ局への広報依頼。

5 成果と課題

(1) 成果

第19回全国生涯学習フェスティバルを開催するにあたり、これまでに経験のない事業だったということもあり、開催までには様々な困難な面も数多くありました。しかし、準備段階より個人や各団体の方々に御理解や御協力をいただきながら官民協働で様々な取組をすすめていく中で、各自が自分たちのまちのもつ特徴やよさに誇りや愛着をもって、互いに確認できました。また、そういった気持ちを基盤として、誰もが自分たちのまちの生涯学習推進について非常に前向きな姿勢で取組めたことは、特に大きな成果だったと思っています。

また、3つの主催事業では、どの事業も好天に恵まれたことはとても幸運でした。このフェスティバルは、これまでにない規模と内容で、しかも初めての新しい試みといった企画をしたこともあり、どの事業も予想を大きく上回る参加者があり、多くの方にいろいろな形で学びの楽しさや大切さを実感していただくことができました。参加者の感想としても「参加して大変よかった」「こういった取組を是非今後も引き続きやってほしい」など、今後の生涯学習推進の大きな原動力になると思われる声も数多く聞かれ、主催者として大変うれしく思っております。

(2) 課題

第19回全国生涯学習フェスティバルは、これまでに経験のない事業だったこともあり、計画立案に時間がかかったことや経費等の問題もあり、広報活動において市民に十分に周知徹底できなかった面があったと思います。

そういったことも影響してか「そうじゃまなび人間大集合！」の展示の部では、一般公募による応募者が予想より少なく、多くの市民の主体的な参加というところまでもっていきなかつた面があったことは残念なことでした。適切な時期に適切な方法で広報活動を実施していくことはもちろんですが、広報に関する呼びかけの内容にも更に工夫を凝らしていく必要があることを改めて実感しました。

今回の経験を是非今後に生かしていきたいと考えています。

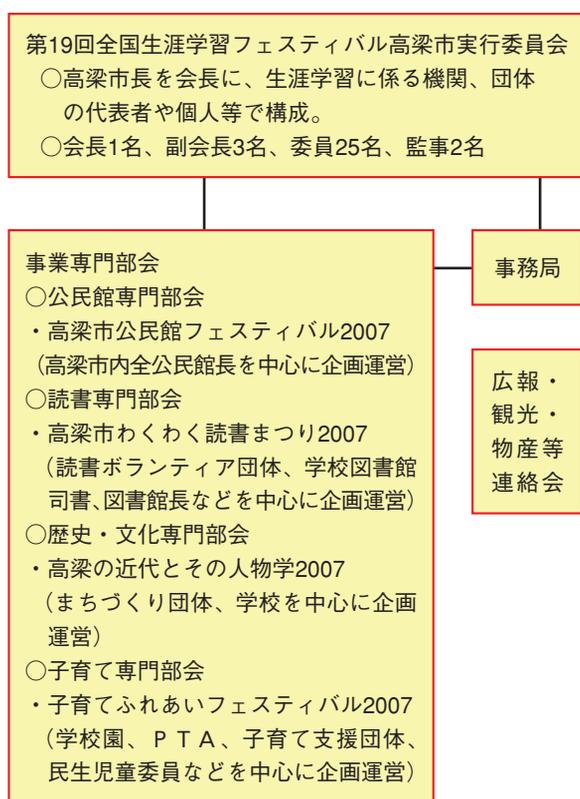
高梁市

1 推進体制（組織図）

(1) 平成19年5月2日に高梁市長を会長とする第19回全国生涯学習フェスティバル高梁市実行委員会（委員31名、以下「実行委員会」とする）を設置しました。

また、第19回全国生涯学習フェスティバル高梁市実行委員会主催事業の企画・運営を円滑に行うために、関係機関や団体、個人による各事業専門部会（4部会、部会委員56名）及び広報・観光・物産等連絡会、事務局を実行委員会の下に設置しました。

【組織図】



2 基本方針

（基本方針）

県実行委員会の基本理念を共通認識し、その具現化を図るとともに、これまで取り組んできた生涯学習の成果を発信していくために、公民館活動の発表や子育て、歴史文化及び伝統芸能など高梁市の特色を活かした事業を展開します。

また、市民との協働による、地域の一体感を育む事業を実施します。具体的は、次の5つの柱を基本とします。

- これまで取り組んできた学習の成果を活かした事業
- 市民と行政（産官学等）の協働による事業

- 幼児から高齢者までが学べる事業
- 豊かな歴史・伝統文化資源を活かした事業
- 開催の成果が継承される事業

（運営方針）

- 実行委員会により、フェスティバルの核となる事業を実施するとともに、他団体が主催する参加事業を多く取り入れ構成します。
- 開催期間だけでなく、前後3ヶ月（9月～12月）の協賛事業も含め、多くの市民が生涯学習に参加できるフェスティバルとします。
- 主催事業については、企画・運営に多くの市民の参画を得て、市民と行政の協働を積極的に推進します。
- 県実行委員会主催事業と連携するとともに、生涯学習見本市に出展し、全国に向けて高梁市の情報を発信します。

3 企画運営・事業展開

(1) 企画運営

事業の企画に当たっては、基本方針に基づいて、前年度までに取り組んできた生涯学習関係事業を中心に対象年齢層や日時、開催場所、内容などを考慮し決定しました。

また、各専門部会において高梁市らしきが出るように協議を重ねました。例えば、公民館フェスティバルでは、公民館活動の日頃の成果の発表だけでなく、地域の伝統文化の上演や郷土の偉人の紹介をしたり、また、わくわく読書まつりでは、高梁市にちなんだ本の展示コーナーを開設したりしました。

さらに、平成17年度に開催された「晴れの国岡山国体」で培った「おもてなしの心」を継承した運営を行うため、婦人会や商工会議所、商工会、農協などの協力を得て以下のような取り組みを行いました。

○歓迎看板、のぼり旗の設置

J R 備中高梁駅前に歓迎看板やのぼり旗を設置

○総合案内の開設

総合文化会館、文化交流館前に総合案内を開設

○休憩所及び無料飲食コーナーの開設

豚汁やすまし汁、コーヒー、お茶、もちのサービス、おこわ、おにぎり、うどんの販売

○まなびピア高梁の旅、スタンプラリーの実施

高梁総合文化会館、高梁市文化交流館、高梁市有漢生涯学習センター、高梁市歴史美術館、成羽町美術館、吉備川上ふれあい漫画美術館の6カ所を対象に実施

○シャトルバスの運行

J R 備中高梁駅と各会場地を結ぶシャトルバスの運行

4 広報啓発

(1) 広報物の印刷・配布

① 印刷部数	全事業掲載リーフレット	17,000部
	全事業掲載チラシ	8,000枚
	(事業別)ポスター	400部
	チラシ	20,000枚
	プログラム	4,800部

② 配布先

- ・市内 リーフレット 市内全戸配布
チラシ 保・幼・小・中・高・大学
関係機関・団体、市施設等
- ・市外 近隣市町、関係機関・団体等

(2) 告知用の塔や看板、のぼり旗等の設置

- ① 広告塔の設置
市街地国道沿いに高さ4mの広告塔を設置
- ② 事業告知看板の設置
高梁市文化交流館に告知看板を設置
- ③ のぼり旗
各事業実施会場（6会場）、市内全公民館
生涯学習施設、市役所

(3) 広報誌の活用

平成18年10月より毎月、市の広報誌に「マナビ通信」欄の枠を設定し、様々な情報を提供

(4) 地元ケーブルTVの活用

- ① 行政チャンネルによる広報
- ② 開催告知番組や特集による広報

(5) その他

- ① 各種イベントや街頭における広報活動



備中松山踊りや各地の夏祭りなどイベントや駅前、大型スーパーにおける広報活動

- ② 保育園や幼稚園での広報活動

市内全保育園・幼稚園で「マナビ」や「ももっち」といっしょに広報活動



5 成果と課題

(1) 成果

- ① これまで生涯学習活動を実践してきた市民の協力を得、各事業とも随所に高梁らしさを発揮することができました。
- ② 合併3年目を迎え、このフェスティバルに市内全域から発表者や指導者、出品者等として参画し、一体感が強まるとともに、各分野での交流が深まりました。
- ③ 前年度の参加者（来場者）が、今年のフェスティバルの専門部員や運営ボランティアとして参画してくれました。「指導者は企画運営者として、実践者はリーダーとして、未実践者は参加者として」が一步前進しました。
- ④ このフェスティバルを通して培われた市民と行政の協働による事業運営、産官学などの協力、連携関係は、今後、生涯学習を推進する上で大きな力となるとともに、平成22年に岡山県で開催される国民文化祭の基盤になると考えられます。

(課題)

- ① 開催期間が5日間で土・日曜日が1日ずつという中での7事業（3美術館の特別展）は、市の規模から考えると少し無理があったようです。参加者のアンケートでも、もう少しゆったりとした日程であれば、本市他事業や他市の事業にも参加できたのという意見が多く聞かれました。
- ② 中学、高校、大学生のボランティアスタッフとしての参加はありましたが、事業への来場者としての参加は少なく、内容の検討や広報活動など工夫の必要性を感じました。
- ③ このフェスティバルに参画されたボランティアの方々が今後どう生かされていくかが、生涯学習推進の上で大変重要になります。

